

令和4年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和4年度	作成日	令和5年3月31日
部局名	建設部	部局長名	頭山 龍一

（1）部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

1. 快適で持続可能な都市形成【No.11：住み続けられるまちづくりを】

多彩で循環のある地域の集合体として、活力やにぎわいを高める持続可能なまちづくりを進めます。

誰一人取り残さない共生社会の実現に向けたまちづくりを進めます。

地域の特性に合った、誰もが住みたい、住み続けたいと思う快適な住宅環境づくりを進めます。

景観や自然環境に配慮した誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。

都市づくりと連携した住環境整備及び産業関連インフラの充実を行うため、効率的で計画型の社会資本整備（公共交通、文化・スポーツ施設、教育施設、道路、上下水道、住宅等）を進めます。

建築物の木質化やユニバーサルデザインなどを取り入れたまちづくりの推進を行います。

2. 国土調査事業の実施【No.11：住み続けられるまちづくりを】

社会資本整備の基盤である国土調査の真庭市全域の早期完了を目指します。

3. 安全・安心なインフラ整備と維持管理【No.11：住み続けられるまちづくりを】

市道の維持管理方針に沿って良好な道路環境の整備を進めます。

中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化の早期完成を目指します。

橋梁・トンネル等道路重要構造物の長寿命化を図り、持続可能なまちづくりを進めます。

緊急車両の通行が困難な箇所や落石のおそれのある危険箇所を整備し、安全・安心な道路整備を進めます。

建築物の利便性の向上などを図った設計・営繕業務の推進を行います。

4. 安全・安心で持続可能な上下水道事業の運営【No.6：安全な水とトイレを世界中に】【No.14：海の豊かさを守ろう】

上下水道事業の持続可能な経営の確保に向けて、公営企業としての経営体制の強化を進めます。

中長期的な視点に立った施設の改築・更新、老朽化した施設の更新統合等、ストックマネジメントによる維持管理費用の削減を強力に進め、効率的な運営管理を目指します。

また、課の統合による組織力の向上を図り、業務の一体化や類似業務の統合による経営コストの削減などによる持続可能な経営を目指します。

5. 資源循環型社会の実現とエネルギーエコタウン真庭の推進【No.7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに】

建築物への省エネ機器等の導入を検討し、省エネルギー化及び温室効果ガス排出量の削減を推進します。

(2) 事業成果目標	指標名及び目標値			
<p>1-①官民連携によるまちづくりの推進</p> <p>・令和2年度に改定した真庭市まちづくり計画（真庭市都市計画マスタープラン）に基づき、久世、勝山及び落合地域の中心市街拠点の魅力及び生活環境の向上に資するため、市民、地域団体等と更に連携を強化し、組織構築、まちの将来を見据えたビジョンの策定の検討など、官民連携によるまちづくりを進めます。</p> <p>【取組事項】</p> <p>①【久世地域】 市民、地域団体等との組織を構築し、ビジョン策定等の事業内容の更なる検討を進めます。</p> <p>②【久世地域】 北町公園における施設の老朽化対策や防災公園としての多機能化などの課題について、検討委員会を設置して市民等の意見を幅広く聴き、将来的な公園のあり方を検討します。</p> <p>③【勝山地域】 JR中国勝山駅周辺、勝山町並み保存地区等の魅力アップに資するまちづくりの方針や事業の決定等を継続して進めます。</p> <p>④【落合地域】落合街中で空き家を交流と地域の活性化拠点施設として改修・整備し、地域や団体の枠を越えた交流連携を活性化していく「まちなか拠点を活用した学びと交流事業」を実施していきます。</p>	<p>指標:久世地域 まちづくり協議・会議 北町公園検討会議</p>			
	<p>目標値</p>	<p>実績値</p>	<p>評価</p>	<p>次年度への課題</p>
<p>1-②総合的な空家等対策の実施</p> <p>・令和2年度に策定した「真庭市空家等対策計画」に則り、また、空家等を把握・対応を検討する部局横断的な会議を適宜開催し、空家等の利活用の促進によるUIターン者等の獲得や、老朽危険空家等への対策による地域住民の安全で安心な生活環境の確保等、他部署と連携した総合的な空家等対策を実施します。</p> <p>①特に都市住宅課では、老朽化した危険な空家を除却する際の補助金の交付や、所有者の意識の醸成、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づく措置を行うなど、老朽危険空家等対策を行います。</p> <p>②早急に対応しなければならない危険な空き家の対応等可能にする条例等制度を整えていきます。</p>	<p>指標:老朽危険空家等の危険部分の除却件数</p>			
	<p>目標値</p>	<p>実績値</p>	<p>評価</p>	<p>次年度への課題</p>
	<p>40件</p>	<p>25件</p>	<p>老朽危険空家等への対策による地域住民の安全で安心な生活環境の確保等、他部署と連携した総合的な空家等対策を実施した。早急に対応が必要な空き家について、他市の状況など条例制定に向けての調査を行った。</p>	<p>部局の横断的な会議を随時開催し、地域住民の安全で安心な生活環境の確保できるよう総合的に空き家対策を実施していく。</p>

1-③市営住宅の長寿命化改善事業の実施 ・真庭市営住宅整備計画（真庭市公営住宅等長寿命化計画）に基づいた市営住宅の長寿命化改善事業を実施し、住宅困窮者の住宅確保に配慮しつつ、市民の資産である市営住宅の有効活用とライフサイクルコストの縮減を図ります。なお、当該計画は令和3年度から令和12年度までの10箇年計画で、全50団地のうち17団地を長寿命化改善することとしています。 ・令和4年度は、市営旭住宅改善事業を実施します。	指標:ライフサイクルコストの縮減効果			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	272千円	242千円	早期発注及び工期内完了が出来た。	大型の長寿命化事業が控えているので、入居者の理解を得ながら進めていく。
1-④市営住宅使用料の徴収 ・市営住宅の管理運営のため、文書送付及び電話催告等の方法で、住宅使用料を確実に徴収します。 ※ 令和3年度 96.6% 令和2年度 97.8% 令和1年度 97.9% 平成30年度 97.2%	指標:収納率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%	95.0%	弁護士名の催告書を送付するなど新たな方法にも取り組んだ。	弁護士と一層連携し、法的措置を実施する。
1-⑤景観・自然環境と再生可能エネルギーの調和 ・真庭市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例に基づき、特色ある景観、豊かな自然環境等と太陽光発電に代表される再生可能エネルギーの調和を図っていきます。	指標:審査件数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2件	3件	自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和が図れた。	太陽光発電事業・風力発電事業のみならず、その他の再生可能エネルギーについても、自然環境との調和を図っていく。
1-⑥ 第2次スクリーニング計画 ・第1次スクリーニングで抽出された市内16箇所の大規模盛土について、第2次スクリーニングを実施する優先度を判定し、それらの結果を宅地カルテ等にまとめ、第2次スクリーニング計画を策定します。	指標:審査件数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	16件	16件	第2次スクリーニング計画を実施し、優先度を判定した。	第2次スクリーニング計画において、簡易地盤調査必要箇所について調査を実施する。
1-⑦建築営繕業務の一元化を図る 真庭市有施設の新築や大規模改修工事など建築営繕業務の一元化により、利便性や品質の向上と業務の効率化を図ります。また、木質化やユニバーサルデザインなどを取り入れた設計・営繕業務の推進を行います。	指標:建築工事の実施率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%	100%	市有施設の新築や改修工事など建築営繕業務の一元化により、利便性や品質の向上と業務の効率化が図れた。	引き続き建築営繕業務の一元化を図り、木質化やユニバーサルデザインなどを取り入れた設計・営繕業務の推進を行う。

1-⑧職員の能力開発を進める 職員が講習会等に参加することにより、地域資源の木材を活用した木造(CLT)建築技術やCO2削減に向けた先進技術等について知識を深め、建築物の利便性の向上と省エネルギー化の推進を図ります。	指標：講習会等の参加			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	課職員 2回/人	課職員 3回/人	・LED照明機器新商品等説明会への参加 ・CLTセミナー・共育共創コモンズ(岡山大学)構造見学会への参加 ・高効率空調機器説明会への参加	引き続き講習会等に参加し、先進技術等の知識を取り入れ、市有建築物の利便性の向上と省エネルギー化を図る。
2-①国土調査事業の計画的推進 ・国土調査中の5地区の早期完了を目指し、補助金を最大限活用して、目標面積2.16km ² を完全実施することにより進捗率の向上を図ります。 ・また、勝山・落合地区の市街地地域の調査を早期に終えるよう事業計画を検討していきます。(全体計画面積756.34km ² に対して令和4年度末、完了予定面積729.19km ²)	指標：現地調査面積			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2.16km ² (全体進捗率 96.41%)	2.16km ² (全体進捗率 96.41%)	計画どおりに目標面積を完全実施することが出来た。	補助金により計画変更が生じるため、適正な補助金見込額を算出、反映した事業計画を立てる必要がある。
2-②国土調査事業の効率化 ・令和4年度に2地区の現地調査を直営から外部委託に切り替え業務の効率化を図ります。なお、残り3地区についても引き続き業務の効率化を検討していきます。	指標：延出役人員数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	126人 (前年度の 80%)	130人	2地区を外部委託したことにより、直営で実施する3地区の事前準備等に時間が費やせスムーズに業務が進行した。	外部委託初年度の総括を踏まえ、引き続き業務の効率化を検討していく必要がある。
3-①道路環境整備事業の推進 ・地域や市民団体との協働による道路環境整備事業を推進することで、道路の安全と地域の美観を維持するとともに、市民の道路に対する愛着心を醸成し、地域の小さなしごとを創出する。 ・市民団体による市道の除草活動延長を指標とする。	指標：①除草活動延長 ②登録団体数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	① 276km ②110団体	① 347km ②184団体	広報誌等による広報活動等を行い、除草延長は1.25倍、登録団体数は1.67倍と目標値を大きく超えて事業の推進を図ることができた。	さらなる事業の拡大に向け広報誌等による広報活動を行い事業の推進を図る。

3-②GISを活用した道路等インフラ情報の一元管理 ・全庁での一元管理を関係課と協力して進め、来庁者へのサービス向上と業務の効率化を図ります。	指標：GISを活用したインフラ情報の一元化			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	1式	1式	市道、農道、林道、水道、下水道、用途区域図の異なるシステムをGISへ統合を行った。	今年度で完了の事業
3-③中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化と利用推進 ・市民が安全かつ短時間で広域的に移動でき、地域経済を支える人と物の流れを促進するために、中国横断自動車道岡山米子線全線の4車線化の早期完成を推進します。 ・県や沿線市町と連携し、路線やインターチェンジの利用促進に取り組むとともに、引き続きNEXCO西日本等に事業の早期完成を要請して行きます。	指標：岡山道平均日交通量			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	平均 9,000台 /日	平均 8,052台 /日 (※速報値)	県や沿線市町と連携し、米子道全線開通30周年イベントや海山マルシェに出展して、利用促進のためのPR活動を実施した。また、新型コロナウイルスのため中止されていた県主催のスタンプラリーも再開され、協力して普及に努めた。暫定計算値ではあるが、昨年度よりも交通量が増加する見込みとなった。	R3年度末に岡山米子間の全線4車線化が決定し、工事着実に進められている。引き続きNEXCO西日本等に事業の早期完成を要請するとともに県や沿線市町と連携し、路線やインターチェンジの利用促進に取り組む。
3-④市道の舗装修繕 ・利用者が快適に安心して道路を利用するために、舗装長寿命化修繕計画に基づいて順次舗装修繕を実施します。 ・平成30年度に策定した舗装長寿命化計画(R1～R3)は完了したが、必要な舗装修繕を継続して実施するために計画期間を延長して老朽化が進んだ路線や地元からの修繕要望に対応する。 計画路線 R1 22路線 13.2 km R2 21路線 12.2 km R3 22路線 6.7 km R4 29路線 6.2 km R5 23路線 5.1 km R6 21路線 6.3 km R7 16路線 6.1 km 計 154路線 55.8 km (重複あり)	指標：路線数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	29路線	29路線	実施において、詳細設計を行い、また、簡易補修で対応可能であった路線をパッチングでの修繕に変更した結果、計画延長より施工延長が短くなったが、計画路線の舗装修繕を実施することができた。	引き続き、平成30年度(2018年度)調査結果に基づき老朽化の進行状況を調査し、状況や地元要望などから計画を見直すとともに必要な舗装修繕を推進する。

3-⑤橋梁等の維持管理 ・交通の安全安心と橋梁等長寿命化のために、法定点検を実施し、将来にわたって修繕コストの縮減と予算の平準化を実現するために順次調査設計を行い計画的に修繕工事を施工します。 【橋梁】 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>点検</td> <td>210</td> <td>218</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>調査設計</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>修繕着工橋梁</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(計画8)</p> R4修繕計画 N=82橋 (R4.3現在) R2までの未修繕着工率 $(76-7)/76=91\%$ R3までの未修繕着工率 $(76-(7+13))/76=74\%$ R4目標値 $(82-(7+13+8))/82=66\%$ 以下		R2	R3	R4	点検	210	218	206	調査設計	22	20	20	修繕着工橋梁	7	13	12	指標：修繕未着工率			
		R2	R3	R4																
点検	210	218	206																	
調査設計	22	20	20																	
修繕着工橋梁	7	13	12																	
<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> <tr> <td>66%以下</td> <td>61%</td> <td>国の補正予算により、次年度修繕予定の橋梁を前倒しすることで未修繕着工率の目標を上回ることができた。</td> <td>近年の物価上昇による工事費の高騰により、実施できる橋りょう数が減ることが推測されるが、緊急性や交通量などを参考に優先順位を考慮するとともに、分割発注を推進などする必要はある。</td> </tr> </table>	目標値	実績値	評価	次年度への課題	66%以下	61%	国の補正予算により、次年度修繕予定の橋梁を前倒しすることで未修繕着工率の目標を上回ることができた。	近年の物価上昇による工事費の高騰により、実施できる橋りょう数が減ることが推測されるが、緊急性や交通量などを参考に優先順位を考慮するとともに、分割発注を推進などする必要はある。												
目標値	実績値	評価	次年度への課題																	
66%以下	61%	国の補正予算により、次年度修繕予定の橋梁を前倒しすることで未修繕着工率の目標を上回ることができた。	近年の物価上昇による工事費の高騰により、実施できる橋りょう数が減ることが推測されるが、緊急性や交通量などを参考に優先順位を考慮するとともに、分割発注を推進などする必要はある。																	
4-①水道の漏水対策の強化 予防保全の観点から漏水・断水などの水道事故や費用の発生リスクを低減し、浄・配水コストの縮減と投資の平準化を図るため、老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に行い、水道水の安定的な供給と経営指標となる有収率の向上を目指します。 ・勝山簡水月田地区 有収率88.3% (令和3年度有収率84.2%) 勝山簡水月田地区の老朽管改良工事 (H28~R11)	指標：有収率 (勝山簡水月田地区)																			
	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> <tr> <td>86.5%</td> <td>88.3%</td> <td>事業計画どおり実施することができた。</td> <td>引き続き老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に実施し、水道水の安定的な供給を図る。</td> </tr> </table>	目標値	実績値	評価	次年度への課題	86.5%	88.3%	事業計画どおり実施することができた。	引き続き老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に実施し、水道水の安定的な供給を図る。											
目標値	実績値	評価	次年度への課題																	
86.5%	88.3%	事業計画どおり実施することができた。	引き続き老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に実施し、水道水の安定的な供給を図る。																	
4-②水道の開栓・休止手続きの電子申請化 ・水道の開栓・休止手続きについて、来庁することなく、24時間いつでも申請可能な電子申請を、MIT、広報紙、市ホームページのPR等により普及させ、働き盛り世代や市外在住者など、来庁しての手続きが困難な方の利便性を高めます。また、こまめな開始・休止を行いやすくなることで、長期不在時の予期しない漏水等のトラブル防止を図ります。 ※令和3年度 平均7件/月 令和2年度 平均2件/月	指標：開栓・休止の電子申請数																			
	<table border="1"> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> <tr> <td>10件/月</td> <td>9件/月</td> <td>市の広報媒体を活用した周知により電子申請利用の普及啓発を図った。</td> <td>今後も継続的な普及啓発に努める。</td> </tr> </table>	目標値	実績値	評価	次年度への課題	10件/月	9件/月	市の広報媒体を活用した周知により電子申請利用の普及啓発を図った。	今後も継続的な普及啓発に努める。											
目標値	実績値	評価	次年度への課題																	
10件/月	9件/月	市の広報媒体を活用した周知により電子申請利用の普及啓発を図った。	今後も継続的な普及啓発に努める。																	

4-③上下水道料金の口座振替の推進 ・上下水道料金の収納について、口座振替への移行を推進し、水道利用者の料金納付の手間や納め忘れによる未納を減らすと共に、収納事務や収納コストの削減を目指します。 ・令和3年度：口座振替利用率 83.8% （全使用者23,324人／うち口座振替利用者19,550人） 令和2年度：口座振替利用率 84.1% （全使用者23,299人／うち口座振替利用者19,586人） （令和4年度より口座振替の推進を上下水道まとめて計上）	指標：口座振替利用率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	84.0%	83.6%	市の広報媒体を活用した周知により口座振替の推進を図った。現金納付の督促対象者に口座振替納付勧奨チラシを郵送し、その効果を検証したが、十分な効果が確認できなかった。	今後も継続的な口座振替の促進に努める。口座振替利用者で連続して口座振替のできなかった利用者に対して別の金融機関の口座振替を推進し、期限内納入の割合を高めていく。
4-④下水道による水質保全 ・旭川の源流域にある真庭市は、下流域にきれいな水を供給する必要があります。下水道による生活排水の浄化により、河川環境の水質保全に努めます。 ・接続推進 ・下水道普及のPR(広報、浄化センター見学会など) ※水洗化率…下水道の整備区域内の人口のうち、下水道を使用している人口の割合 【令和3年度末】 ・水洗化率：65.0%（令和2年度末：63.3%、令和元年度末：60.7%） ・整備区域内人口：23,753人 ・下水道接続人口：15,441人	指標：水洗化率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	68.0%	66.0%	公共ます設置後、3年が経過した世帯に訪問し、接続推進を行い、接続に意思を確認することができた。工事説明会が年度末となり接続を推進しているが、翌年度の接続者が多く実績を達成することはできなかった。	工事完了から時間が経つほど空家が増えるので、早期の接続推進が必要となる。また、工事の早期完了を目指していく。
4-⑤下水道事業のコスト削減 ・一般会計から下水道事業会計への基準外繰入金削減のため、コスト削減に取り組みます。 【不明水の削減】 雨水等の不明水が流入することで、必要以上に処理費用が発生しています。雨水流入箇所の調査・修繕により不明水を抑制し、処理費用を削減します。 ※有収率…浄化センターで処理した水量のうち、収入の対象となる水量の割合(令和2年度80.4%、令和元年度79.1%) (口座振替は4-③にて上下水道まとめて計上)	指標：有収率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	89.00%	91.5%	【不明水の削減】 宮地地区での管路施設を更新が令和4年度で完了し、不明水の減少が確認できた。また、令和4年度は降雨日数、量ともに少なかったため、不明水の流入が全体的に少なかったものと思われる。	【不明水の削減】 宮地地区以外においても、大雨時に高水位が発生するマンホールポンプ施設について、原因の調査が必要である。

4-⑥下水道施設の効率化 ・下水道ストックマネジメントに基づき、中長期的な視点で、浄化センターや排水処理施設の状態を予測しながら計画的・効率的に更新を進めるとともに、下水道幹線の水害対策にとり組み、持続的な下水道機能の確保とコスト低減を図ります。 ・農業集落排水施設は市内に6施設あり、設置後20年を超える施設もあるため、現行施設の維持だけでなく、施設の統合を見据えた設備更新と、運営管理を目指します。	指標：維持管理適正化計画策定			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
年度内	年度内	・下水道ストックマネジメント計画に基づき、久世浄化センター電気工事を進めた。 ・農業集落排水は、施設の統合にむけた事前の手続き・機能診断実施・最適整備構想の改定ができた。	・工事費の高騰が起きているため、ストックマネジメント計画の更新が滞る可能性が出てきているため、投資額想定の見直しが必要である。 ・計画的な更新よりも先に故障等による緊急修理更新が多くなってきている。	
4-⑦市設置浄化槽の使用者への譲渡 ・一般会計からの繰入金抑制を図るため、市設置型浄化槽から個人への譲渡契約を進め、令和6年度に市町村設置浄化槽の譲渡完了を目指します。 ・市町村設置浄化槽：893基 ・令和3年度末譲渡契約基数：844基（契約率94.5%） 目標・令和4年度末：880基（契約率98.5%） ・譲渡契約未契約：13基（R6譲渡7基 R5譲渡1基 R4以前5基） 【浄化槽事業一般会計繰入金】 ・令和4年度49,416千円（決算見込） ・令和3年度53,600千円（決算） ・令和2年度62,300千円（決算） ・令和元年度67,800千円（決算）	指標：①譲渡契約率 ②一般会計繰入金額			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
① 98.0% ②対前年 ▲4,134千円	① 99.1% ②対前年▲ 6,184千円	設置後10年となる利用者と譲渡契約を結ぶために今年度の対象者全戸の訪問を丁寧に継続し契約につなげた。	・着実に譲渡を進めているものの、どうしても契約に回っていない利用者もある。 ・R7.4.1譲渡完了（目標）後に未契約の利用者についての将来対応の方針検討が必要である。	
4-⑧上下水道事業の持続可能な経営 【経営戦略の改定】 ・施設整備における投資の抑制や人口の減少を見据えた収支計画の検討、下水道整備区域の見直し、上下水道課の統合による共通している業務の一体化や類似業務の統合による経営コストの削減などによる持続可能な経営を目指し、上下水道の中期経営の指針となる「真庭市水道事業経営戦略」「真庭市下水道事業経営戦略」について、令和4年度中を目途に改定します。	指標：「真庭市水道事業経営戦略」「真庭市下水道事業経営戦略」改定			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
年度内	年度内	時点修正を行い、今後持続可能な経営ができるよう検証していく指標を設け、達成できるよう進めていくことが出来る。	新料金システムがうまく稼働せず、水道・下水道料金の一括徴収などが先送りとなった。	
5-①省エネルギー設備等の導入促進によるゼロカーボン化の推進を検討する 施設の新設・改修時や老朽化した設備・機器等を更新する際には、LED照明や高効率エアコンなど省エネ機器の導入を積極的に検討し、順次更新を進めていくことで、省エネルギー化及び温室効果ガス排出量の削減を検討します。	指標：可能性の検討			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
100%	100%	省エネルギー機器等を検討し、導入可能なものは順次更新を進め、省エネルギー化及び温室効果ガス排出量の削減が出来た。	省エネルギー設備だけでなく、すべての建築資材も高騰しているため、ゼロカーボン化に取り組むためのコスト増額が見込まれる。	